

安 全 デ ー タ シ ー ト (S D S)

1. 化学品及び会社情報

製品名	新車用クリーナー
会社名	KeePer技研株式会社
住所	愛知県大府市吉川町4-17
担当部門	製品部
電話番号	0562-45-5258
FAX番号	0562-45-5268
奨励用途	自動車ボディのコーティング前処理
使用上の制限	上記用途以外に使用しない
作成日	2021年11月17日
改定日	2022年2月1日
整理番号	I-2021-111
改定番号	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

項目	区分
エアゾール	—
引火性液体	区分3 H226
急性毒性（経口）	—
急性毒性（吸入）	—
皮膚腐食性／刺激性	区分3 H316
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	—
呼吸器感作性	—
生殖細胞変異原性	—
発ガン性	—
生殖毒性	—
標的臓器／全身毒性（単回暴露）	—
標的臓器／全身毒性（反復暴露）	—
誤えん有害性	区分1 H304
水生環境有害性 短期（急性）	—
水生環境有害性 長期（慢性）	区分4 H413

※区分の記載がないものは、区分に該当しない、又は分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示：



注意喚起語：

危険

危険有害性情報：

H226 引火性液体および蒸気
 H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 H316 軽度の皮膚刺激
 H413 長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ

注意書き

安全対策：

P210 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 P233 容器を密閉しておくこと。
 P240 容器を接地しアースを取ること。
 P241 防爆型の電気/換気/照明/機器を使用すること。
 P242 火花を発生させない工具を使用すること。
 P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具/を着用すること。
 P273 環境への放出を避けること。

応急措置：

P303 + P361 + P353 皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水またはシャワーで洗うこと。
 P370+378 火災の場合：消火するために水噴霧、泡、ドライケミカル、あるいは炭酸ガスを使用すること。
 P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
 P331 無理に吐かせないこと
 P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。

保管： P403 + P235、P233 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。容器を密閉しておくこと。
P405 施錠して保管すること。

廃棄： P501 内容物/容器を都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

成分名/化学名	含有量(%)	CAS No.	化審法No.	安衛法No.
Naphtha (petroleum)heavy alkylate	100	64741-65-7	(9)-1690	非該当

労働安全衛生法： 非該当

労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則： 非該当

P R T R 法報告物質： 非該当

4. 応急措置

吸入した場合： 通常の使用条件下では治療は必要ない。症状が続く場合は、医師に相談すること。

皮膚に付着した場合： 汚染された衣服を脱ぐこと・暴露面を水で洗い流し、その後、可能なら石けんで洗うこと。

眼に入った場合： 大量の水で眼を洗い流し、症状が残るようであれば医師に診せること。

飲み込んだ場合：

- ・飲み込んだ場合は無理に吐かせず、最寄の医療施設に搬送して治療を受けさせること。
- ・自然に嘔吐する場合は、誤嚥を防ぐため、頭部が腰より下に来るようにする。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状：

- ・事故発生から6時間以内に発現した場合は、最寄りの医療施設へ搬送してください：38.3℃を超える発熱、息切れ、胸部うっ血、継続的なせき、または喘鳴（ぜいぜい息をすること）。
- ・物質が肺に入った場合の兆候および症状は、咳、窒息、ぜん鳴音、呼吸困難、胸部うっ血、息切れ、および/または発熱が挙げられる。
- ・脱脂している皮膚炎の兆候および症状には、灼熱感および/または乾燥、ひび割れの外観が含まれる。

応急措置をする者の保護に必要な注意事項： 救急処置を行う場合は、事故や怪我、周囲の環境に応じて個人用保護具を必ず着用すること。

医師に対する特別な注意事項： 化学性肺臓炎の可能性がある。医師または毒物管理センターに電話し、指示を求めること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤： 泡消火剤、散水または噴霧。小規模の火事の場合のみドライ粉末消火剤、二酸化炭素、砂または土の使用可。

消化方法：

- ・適切な保護具（耐熱性着衣等）を着用する。
- ・可燃性のものを周囲から素早く取り除く。
- ・指定の消火剤を使用すること。
- ・高温にさらされる密閉容器を水をかけて冷却する。
- ・消化活動は風上から行う。

使ってはならない消火剤： 水（棒状水、高圧水）
火災時特有の危険有害性：

- ・浮遊性の固形/液体の粒子状物質とガスの複合混合物（煙）。
- ・一酸化炭素。
- ・未確認の有機および無機化合物。
- ・引火点未満の温度でさえも、可燃性蒸気が存在しうる。
- ・蒸気は空気よりも重く、地面に沿って広がり、離れた場所で引火する可能性がある。
- ・水面に浮かび、再引火することがある。

特有の消化方法：

- ・関係者以外を火災区域から退去させる。
- ・化学物質の火災に対する標準の手順。
- ・水を噴霧して隣接の容器を冷却し続けること。

消火活動を行うものの特別な保護具及び緊急時措置：

- ・化学的耐性のある手袋などの適切な保護具を着用し、物質の流出による広範囲に及ぶ接触が予想される場合には化学的耐性のある衣服も着用してください。
- ・密閉空間で火気に接近する際は、自給式呼吸器を着用してください。関連基準（欧州の場合：EN469）に基づいて承認された消防服を選択してください。

追加情報： 特になし。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項, 保護具及び緊急時措置 :

- ・関連する国内及び国際法規を遵守すること。
- ・一般市民または環境への曝露が起こるか、或いは起こりそうな場合は、当局に通知する。
- ・流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。
- ・皮膚、目、衣服との接触を避けること。
- ・危険区域を隔離し、不用または無装備な人の立ち入りを拒否する。
- ・ガスや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- ・電気機器を操作しないでください。
- ・人に危険なく停止することが可能な場合、漏れを止める。
- ・周囲の発火源となる全てのものを取り除く。

環境に対する注意事項 :

- ・(生成物および消火用水の) 適切な格納容器を用いることにより環境汚染を回避する。
- ・砂、土、またはその他の適切な障壁を用いて、下水溝、水路、河川への拡散または流入を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材 :

- ・例えば、霧を噴霧して、蒸気を分散させるか、またはその蒸気の流れを安全な場所に誘導する。
- ・静電気に対する予防措置を講ずること。
- ・接地(アース)を全ての機器に接続して、確実な導電性を確保してください。
- ・可燃性ガスの検知器で区域を監視する液体の流出量が少ない場合は(ドラム缶1缶未満)、回収または安全な廃棄を行うため、ラベルを貼付した密閉式の製品コンテナへ機械的な手段で運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。
- ・残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、安全に処分すること。
- ・汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。
- ・液体の流出量が多い場合は(ドラム缶2缶以上)、バキュームカーなど機械的な手段で再利用タンクに運搬して、回収または安全な廃棄を行うこと。
- ・残留物を水で洗い流さないこと。そのまま汚水として扱うこと。
- ・残留物は蒸発させるか、適切な吸収剤に吸収させ、安全に処分すること。
- ・汚染した土壌は除去し、安全に処分すること。
- ・汚染領域を完全に換気する。
- ・敷地が汚染された場合、汚染除去には専門家の意見が必要な場合があります。

二次災害の防止策 :

特になし。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い

技術的対策 :

- ・蒸気および/またはミストの吸入を避ける。
- ・皮膚、目、衣服との接触を避けること。
- ・如何なる裸火も消す。禁煙。発火源を除去する。スパークを避ける。
- ・蒸気、霧、またはエアゾルを吸入する危険性がある場合、局所的に換気を行ってください。
- ・大量貯蔵容器は防油堤で囲むべきである。
- ・使用中は、飲食は控えてください。
- ・蒸気は空気よりも重く、地面に沿って広がり、離れた場所で引火する可能性がある。
- ・そのため、適切な接地およびボンディングを施した場合でも帯電が生じる可能性があります。
- ・帯電量が一定値を超えると、静電気放電や可燃性空気蒸気混合物の点火を引き起こす可能性があります。静電気の帯電によりその他の危険が生じる可能性のある作業には注意が必要です。
- ・これらの作業には、ポンプ給油(特に乱流)や混合、フィルター、スプラッシュファイリング、タンクやコンテナの清掃・給油、サンプリング、スイッチローディング、検尺、バキューム車操作、機械動作などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。
- ・これらの作業は、スパーク形成などの静電気放電につながる可能性があります。
- ・静電気放電を防止するため、ポンプ採油中は線速度を抑える必要があります。(給油管の直径の2倍に浸るまでは ≤ 1 m/s、その後は ≤ 7 m/s)。
- ・スプラッシュファイリングは避けてください。
- ・給油や排油、機器の取り扱い操作に圧縮空気は使用しないでください。

保管

適切な保管条件：

- ・貯蔵温度：常温
- ・大量貯蔵容器は防油堤で囲むべきである。
- ・タンクは、熱や火花の発生源から離れたところに配置してください。
- ・貯蔵タンクの洗浄、点検および整備は専門家がいき、厳密な手順の実施および注意を必要とする。
- ・日光、着火源および他の熱源から離れ、十分に換気された防油堤の中で貯蔵すること。
- ・エアゾール、可燃物、酸化剤、腐食性薬品、ヒトにも環境にも有害でなく毒性でない他の可燃製品に近付けないこと。
- ・ポンプ給油中には帯電が生じます。
- ・帯電による火災発生のリスクを抑えるため、すべての装置にボンディングおよび接地（アース）処理を施し、電気的導通を確保する必要があります。
- ・貯蔵タンクの上部空間に燃焼/爆発を誘発可能な量の蒸気が溜まっている場合があるため、可燃性と見なす必要があります。

適切な包装材料：

- ・容器および容器の内張には、軟鋼またはステンレス鋼を使用してください。
- ・容器の内面塗装には、エポキシ塗料、ケイ酸亜鉛塗料を用いる。
- ・容器の内面塗装には容器の内面塗装には、エポキシ塗料、ケイ酸亜鉛塗料を用いる。
- ・適さない材質：天然ゴム、ブチルまたはニトリルゴム類との長期の接触を避ける。
- ・容器の上或いは近くで、切断したり、穴をあけたり、こすったり、溶接したり、同様な作業をしない。

8. ばく露防止及び保護措置

成分名	管理濃度/ppm	許容濃度/ppm (日本産業衛生学会)	許容濃度/ppm (ACGIH)
ハイドロカーボン	—	—	TWA (8hr) 1200mg/m3

※記載の無いものは、知見なし、あるいはデータなし。

監視方法：

- ・職業暴露限度の遵守と曝露制御の妥当性を図るためには、作業者が呼吸する場所や一般的な職場の物質濃度をモニタリングする必要があると考えられる。
- ・一部の物質については、生物学的なモニタリングが適している場合もある。
- ・検証済みの曝露測定方法は資格を有する人物が実施し、またサンプルの分析は認定を受けた研究所で行う必要があります。
- ・推奨するエアモニタリング法の情報源の例としては、下記に示されている。
- ・または製造元に連絡する。さらに国内規定の方法を利用する。
- ・National Institute of Occupational Safety and Health (NIOSH), USA: Manual of Analytical Methods <http://www.cdc.gov/niosh/>
- ・Occupational Safety and Health Administration (OSHA), USA: Sampling and Analytical Methods <http://www.osha.gov/>
- ・Health and Safety Executive (HSE), UK: Methods for the Determination of Hazardous Substances <http://www.hse.gov.uk/>
- ・Institut für Arbeitsschutz Deutschen Gesetzlichen Unfallversicherung (IFA), Germany. <http://www.dguv.de/inhalt/index.jsp>
- ・L'Institut National de Recherche et de Sécurité, (INRS), France <http://www.inrs.fr/accueil>

設備対策：

- ・必要な保護レベルと管理のタイプは、潜在的な曝露条件によって異なる。
- ・現地環境のリスク評価に基づいて管理方法を選択する。適切な方法には、以下のものがある。
- ・可能な限り密封系を使うこと。
- ・曝露指標基準/制限未満に作業環境濃度を制御するために適切な防曝用の換気をする。
- ・局所排気装置が推奨される。
- ・消火モニターおよび放水システムを推奨する。
- ・緊急時用の洗眼器およびシャワー
- ・製品を加熱するか、噴霧するか、または霧生成させる場合、空气中濃度を上昇させる潜在性が高い。

一般情報：

- ・素材の取扱い後や飲食・喫煙の前に手を洗うなど、常に身の回りの正しい衛生措置を実行するようにしてください。汚染物質を除去するため、作業衣や保護具は定期的に洗浄します。
- ・汚染され、かつ洗浄が不可能な衣類や履物は廃棄してください。適切な清掃管理を行ってください。
- ・安全な取り扱いや制御装置のメンテナンスの手順を明確に定めてください。
- ・本製品を用いた通常業務に伴う危険性とその管理手順について、作業員に対する教育およびトレーニングを実施してください。
- ・暴露管理に用いる装置（個人用保護具や局所排気装置）が適切なものであるか、またこれらに対し適切なテストやメンテナンスが行われているか確認してください。

保護具

保護具（PPE）は、推奨される国家規格を満たさなければならない。保護具（PPE）供給業者に問い合わせること。

呼吸用保護具：

- ・技術管理により作業環境濃度が作業員の健康を保護するのに十分なレベルで維持されていない場合、特定の使用条件に適合し、且つ関連する法規を満たすのに適した呼吸用保護具を選定すること。
- ・呼吸用保護具提供者に問い合わせる。
- ・空気フィルタ付呼吸器が適さない場合（例えば、作業環境濃度が高い、酸素欠乏の危険性、閉鎖空間）、適切な陽圧呼吸器を使用する。
- ・空気フィルタ付呼吸器が適している場合、適切なマスクとフィルタの組み合わせを選ぶ。
- ・エアフィルタ呼吸用マスクが、使用条件に適切である場合：有機ガスおよび有機蒸気[沸点：>65 °C (149 °F)]に適切なフィルタを選ぶ。

手の保護具：

- ・製品に手を触れる可能性がある場合、関連する基準（たとえば欧州のEN374、米国のF739）で承認された、以下の素材で作られた手袋を使用することにより、適切な化学防護ができる。
- ・より長期間の保護：ニトリルゴム手袋。
- ・偶発的な接触/飛沫防止：PVC、ネオプレンまたはニトリルゴム手袋。
- ・連続的に接触する場合は、破過時間が240分以上の手袋を着用してください。（破過時間が480分以上の手袋がある場合は、そちらを着用してください）。
- ・短時間/飛沫の保護に使用する場合も、上記の手袋を着用してください。ただし、この保護レベルを備えた手袋は入手できない可能性があるため、その場合は、適切なメンテナンスと交換が行われていれば、破過時間の短い手袋で代替することが可能です。
- ・手袋の耐薬品性は、素材の組成によるため、手袋の厚みから耐性の有無を的確に判断することはできません。
- ・手袋の厚みは、メーカーやモデルによって異なりますが、通常0.35 mm 以上のものを着用してください。
- ・手袋の適合性および耐久性は、接触の頻度や期間、手袋の素材の耐薬品性、手袋の厚さ、使用者の器用さなどの利用状況により異なる。
- ・常に手袋販売業者の意見を求めること。
- ・汚染された手袋は交換すること。個人的衛生を維持することは、手の効果的なケアに重要な要素です。手袋は清潔な手に着用してください。
- ・手袋を使用したあとは、手は、洗浄して完全に乾燥させる必要があります。
- ・芳香剤を加えていないモイスタライザーを使用することを推奨します。

眼・顔面の保護具：

材料取扱い時に飛沫が眼に入る可能性がある場合には眼用の保護装具を用いることが推奨される。

皮膚及び身体の保護具：

- ・通常の下着で使用する場合、皮膚の保護は不要です。
- ・長時間または繰り返し物質に曝露される場合は、曝露される体の部分を防水性の衣類で覆ってください。
- ・物質への反復および/または長期皮膚曝露の可能性が高い場合は、EN374基準準拠試験済みの適切な手袋を着用し、皮膚の保護に関する従業員向けプログラムを提供すること。
- ・当該地域のリスク評価により認められている場合は、静電気防止および難燃性防護服を着用すること。

衛生対策：

- ・食事、飲用、喫煙、トイレ使用前に手を洗う。
- ・再使用前に、汚染された衣類を洗濯すること。
- ・飲み込まないこと。飲み込んだ場合は、直ちに医師の診察を受けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色透明
臭い	僅かな石油臭
融点／凝固点	—
沸点又は初留点及び沸騰範囲	代表値185～199 °C
可燃性	—
爆発限界及び爆発上限界／可燃限界	0.6 % (V) ～ 6 % (V)
引火点	代表値60 °C
自然発火点	417 °C 方法: ASTM E-659、 270 °C 方法: DIN 51794
分解温度	—
pH	—
動粘性率 (粘度)	代表値1.68 mm ² /s (20 °C)
溶解度	非水溶性
n-オクタノール／水分配係数(log値)	log Pow: 5.5 - 7.7
蒸気圧	—
密度及び/又は相対密度	代表値0.77 g/cm ³
相対ガス密度	—
粒子特性	—

※記載なしは知見・データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	危険な反応は報告されていない。
科学的安定性	通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	危険な反応は報告されていない。
避けるべき条件	取り扱いについては項目7を参照。
混触危険物質	特になし。
危険有害な分解生成物	特になし。

11. 有害性情報

製品としての有害性情報	本品には毒性の所見は見当たらない
急性毒性	データなし。
皮膚腐食性/刺激性	反復ばく露が皮膚の乾燥およびひび割れを起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	刺激なし。
呼吸器感作性または皮膚感作性	入手可能なデータに準拠すると該当せず。
生殖細胞変異原性	本品を構成する物質のいずれにも変異原性は認められていない。
発がん性	本品を構成する物質のいずれにも発がん性は認められていない。
生殖毒性	本品を構成する物質のいずれにも繁殖に及ぼす毒性は認められていない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	入手可能なデータに準拠すると該当せず。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	入手可能なデータに準拠すると該当せず。
誤えん有害性	データなし。
成分の有害性情報	データなし。

12. 環境影響情報

製品としての環境影響情報	本品の環境毒性に関するデータは存在しない。
成分の環境影響情報	データなし。
生体毒性	データなし。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	データなし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。 廃棄する際は、中身を使い切ってから、地域のゴミ処理方法に従って廃棄すること。
-------	--

14. 輸送上の注意

国連番号	3295
国連分類	炭化水素類、HYDROCARBONS, LIQUID, N. O. S
容器等級	III
国内規制	

容器イエローラベル	128 引火性液体(水不溶)
積載方法	—
混載禁止	—
輸送の特定の安全対策及び条件	<ul style="list-style-type: none"> ・取扱いおよび保管上の注意の項の記載に従うこと。 ・容器に漏れの無いことを確かめ、点灯、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

15. 適用法令

火薬類取締法	対象外
消防法 ()内は指定数量	第四類第二石油類 非水溶性(1,000L)
毒物及び劇物取締法 (毒劇物取締法)	対象外
労働安全衛生法	非該当
労働安全衛生法 有機溶剤中毒予防規則	非該当
特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR制度)	非該当

16. その他の情報

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ (社) 日本塗料工業会作成 GHS対応MSDS・ラベル作成ガイドブック [(混合物 (塗料用))] ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法、ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) JIS - Z - 7253 : 2019 ・ 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂8版 (国際連合文書 2019) ・ 経済産業省 GHS対応 化管法・安衛法におけるラベル表示・SDS提供制度 ・ 厚生労働省 有機溶剤中毒予防規則
------	---

※注意 安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保する為の参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。